**●研修プログラムの実際**

本プログラムでは, アカデミックな視点を持った救命救急医療のスペシャリストを養成します。救急科領域研修カリキュラムに沿って，経験すべき疾患，病態，検査・診療手順，手術，手技を経験するため，基幹研修施設と複数の連携研修施設での研修を組み合わせています．本プログラムにおける病院群は，いずれも救急科標榜・救急科専従医が勤務している病院です. 診療スタイルは様々ですが, 救急科医師としての勤務を通じて, 研修カリキュラムの内容を網羅できる環境にあります.

また救急科医師が初期診療とともに重症患者の入院診療も行っており、救急科専門医取得後のサブスペシャリティである集中治療の修練も行うことができます. 大学および大学院連携施設を含んでおり，救急科専門医取得のみではなく，将来の医学博士号取得も視野に入れた計画も可能です.

① 定員：３名/年

② 研修期間：3 年間

③ 研修施設群

本プログラムは，研修施設要件を満たした下記の 7 施設で行います.

ローテーションの方法については，専攻医の希望を基に救急科領域専門研修管理委員会で検討いたします. 原則として, 3～6 ヵ月を単位とした期間でローテーションを行います．専攻医の希望を最優先しますが，経験症例・手技の達成程度によってローテーション先を判断することも行います.

④ 研修内容

1) 救急初期診療と集中治療

様々な病態の救急患者に対する救急初期対応の研修および救急科医師として積極的に携わるべき重症病態の入院診療(集中治療)を学ぶことが研修の根幹となります.

2) 病院前診療と災害医療

病院前診療・災害医療における役割を担っている施設においては，訓練を含めて希望に応じて積極的に参加することが可能です.

3) 各種学会やトレーニングコースでの研修

学会発表・参加（海外を含む)，およびトレーニングコースへの参加は希望に応じて積極的に参加することが可能です.

4) 博士号取得について

救急科研修カリキュラムの経験症例・経験手技を研修期間内に確実に修了すること

が前提となりますが，研修期間の一部を大学院研究期間に当てることができます．
希望時にはカリキュラム委員会で検討します．

5) サブスペシャリティ・他領域研修について

前項と同様に救急科研修カリキュラムの経験症例・経験手技を研修期間内に確実に修了することが前提となりますが，研修期間の一部を他領域研修にあてることも可能です．また集中治療室で行ったサブスペシャリティの研修内容を救急科研修カリキュラムの経験症例・経験手技に当てることも可能です．
希望時にはカリキュラム委員会で検討します．

6) その他専門研修プログラム終了後に継続的に熊本大学病院で博士号取得や他領域研修を行うことは可能です．適宜相談に応じます．